



# 教会短信

2011年4月10日

No. 38

牧師 間瀬 善彦

3月11日の東日本大震災から約一カ月、原発の放射能汚染の問題は今も続いております。原発から20キロ、30キロ圏の方々は、日本各地に避難生活を強いられ、不安な毎日を送られておられることでしょう。当教会にも、福島県南相馬市から避難されたご家族が4人来られています。教会の2階の狭い部屋に4人暮らして、不自由なことは多くあると思いますが、原発の問題が収まるまでしばらく生活していただいております。わたしたち教会の者たちも、こうした避難者の方々をお迎えする機会が与えられ、十分とは言えませんが、少しでも今回の震災のために関わる機会が与えられ、神に感謝しております。

この未曾有の大震災にあたって、外国人の方が日本人には助け合う心があることが素晴らしいと言われたそうです。こんな嬉しい出来事がありました。教会に避難された方が車で出かけられたところ、車に「避難車両」と書いてあったのと福島ナンバーであるのを見て、見ず知らずの方が声をかけてくださり、教会に避難していると知ると、のちほど教会まで訪ねてくださり、避難者の方に救援物資をたくさん届けてくださったのです。大震災自体は二度と経験したくない出来事ではありますが、大震災のニュースを見て人のために何かをしたい、何ができるだろうかという思いを与えられたとしたら、この震災は良い教訓を与えてくれたこととなります。

さて、今年のイースター（復活祭）は、4月24日（日）です。イエス・キリストがすべての人間の罪を背負って十字架につけられ、3日目にご復活をされた日です。

「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない」（マルコ福音書 16:6）。

天使がイエスの弟子たちに語った言葉です。イエスは十字架につけられて死んでしまっただけでなく、神の力で復活させられ、今も信じる者たちのために働いてくださっておられるのです。イエス・キリストの復活は、何をわたしたちに与えてくださるのでしょうか。信じる者には生きる希望が与えられるということです。

大震災による大きな悲しみや痛みから癒され、日本国民が復興に向けて立ち上がることができるよう、復活のイエスから希望と力をいただいてまいりましょう。

## 東日本大震災の祈り

- ・被災し、深い痛みと悲しみにある人々に、主なる神の平安と慰めと希望が備えられますように
- ・救援・支援活動のために懸命に尽くしている働き人の健康と働きが守られますように
- ・被災地に建てられた教会の上に、主なる神の慰めと励ましが豊かに注がれ、主なる神ご自身の慈しみが豊かに分かち合われてきますように
- ・このとき、主なる神の教会が、主なる神の御旨に従い、主なる神と共に働き、主なる神に栄光を帰すことができますように

日本バプテスト連盟、経堂バプテスト教会

## 『大地の詩—留岡幸助物語』

4月9日（土）から新宿武蔵野館で上映。

留岡幸助(1864～1934)は、日本の社会福祉の先覚者で、感化院（現代の児童自立支援施設）教育の実践家。北海道家庭学校の創始者。

幸助はキリスト教へ入信。明治24年、金森通倫牧師の勧めで、妻子を連れて北海道・空知にある監獄の教諭師に就任する。空知集治監では、囚人が強制労働など過酷な刑罰を受けていた。幸助は、なんとか囚人を更生させ、監獄を改革しようと、3年に渡って囚人の過去を調査する。

そして、犯罪の芽は幼少期に発することを知り、幼い頃の家庭教育の大切さに気づく。幸助は、米国に渡り2年をかけて欧米の監獄事情を学ぶ。そして帰国後、少年感化を実現すべく、「家庭学校」を作る。

※チケットの必要な方は、教会に前売券(¥1,500)がございます。お問い合わせください。

# マザー・テレサ

人に、優しい愛と思いやりを  
注ぎましょう。  
あなたの惜しみない心遣いと  
あなたのあふれる喜びは、  
大きな希望を与えることでしょう。

(『マザー・テレサ日々の言葉』女子パウロ会) より引用



## イースター記念礼拝

2011年4月24日(日) 午前10時30分～

イースターは、復活祭です。イエス・キリストが十字架にかけられて殺され、埋葬された後、3日目の日曜日の早朝に復活されたことをお祝いする日です。キリスト教会では、キリストが復活された日曜日を「主の日」と呼んで、教会に集まり礼拝をします。

イースターは、「移動祝日」で、年毎に日が変わります。基本的には、春分の後の最初の満月の次に来る日曜日です。満月が日曜日になったら、次の日曜日に復活祭を行います。今年は4月24日の日曜日に、イースター礼拝を行います。どうぞ、ご自由にご参加ください。